

釧路村天寧自衛隊入口(崖) 採集の遺物について

石川 朗、澤田 恭平*

はじめに

ここで紹介する資料は、1973年に釧路村天寧の陸上自衛隊第5師団釧路駐屯地と国道391号線を接続する村道脇の崖面で採集されたものである(註)。資料には骨角器が含まれることから貝塚環境の存在が示唆される。なお本資料は、採集者が後に釧路工業高等学校郷土史研究部(石川編2012)で活動した経緯から同部資料群に追加登録した。

1. 採集地(第1図)

採集地は天寧1遺跡内と判断される。同遺跡はかつてテンネル第1地点と呼ばれ3箇所(の)の貝塚が含まれている(澤ほか1975)。記録された位置と状況が一致するのはテンネル北貝塚付近で、ここでは1968年に釧路考古学研究会(岡崎ほか1968)、2008年に財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しており、後年の調査では縄文晩期後半の魚骨層から骨角貝製品266点が発見された(鈴木2011)。

2. 遺物(第2図)

資料の内訳は、土器20点、骨角器2点、フレイク1点、磔2点である。

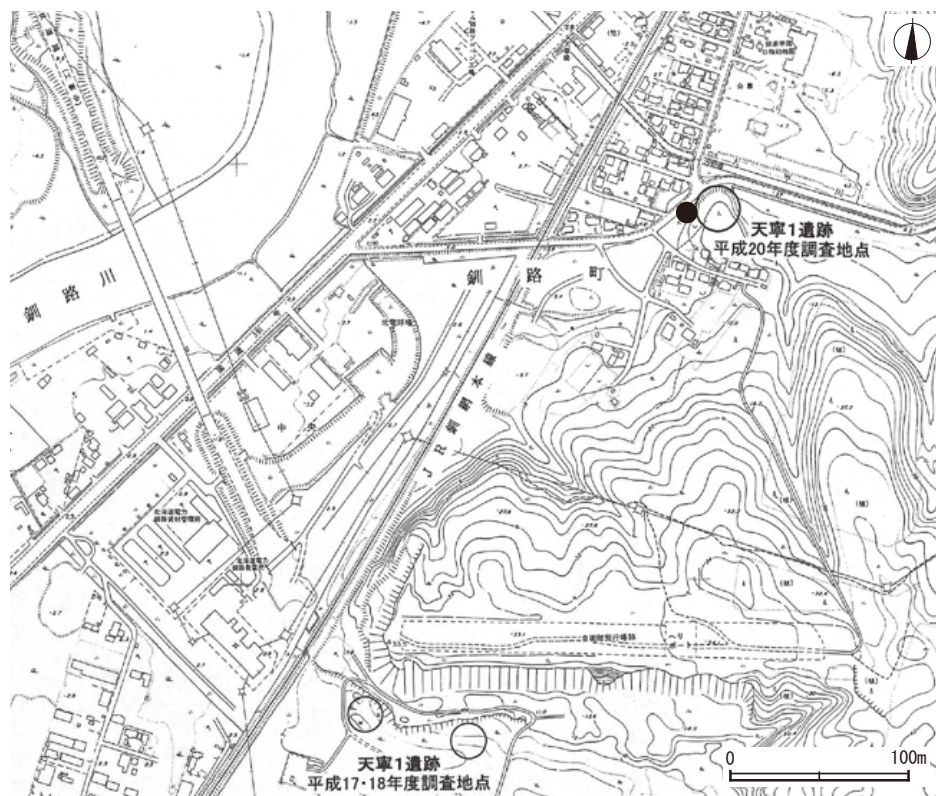
(1) 土器

1、2は沈線文を施したものの。胴部はLR縄文。1は赤色顔料が塗られている。3は縄線文を施したものの。口唇内面に刻みがある。3は綾くり文を施したものの。4は表面と口唇にLR縄文を施したものの。表面の条は縦走する。6は波状口縁をなす無文土器。波長3.2~3.6cm、最大厚1.2cm。波頂部は指頭で押圧され浅く窪む。波底部の口

唇には沈線が施される。焼成は極めて良好で硬質である。

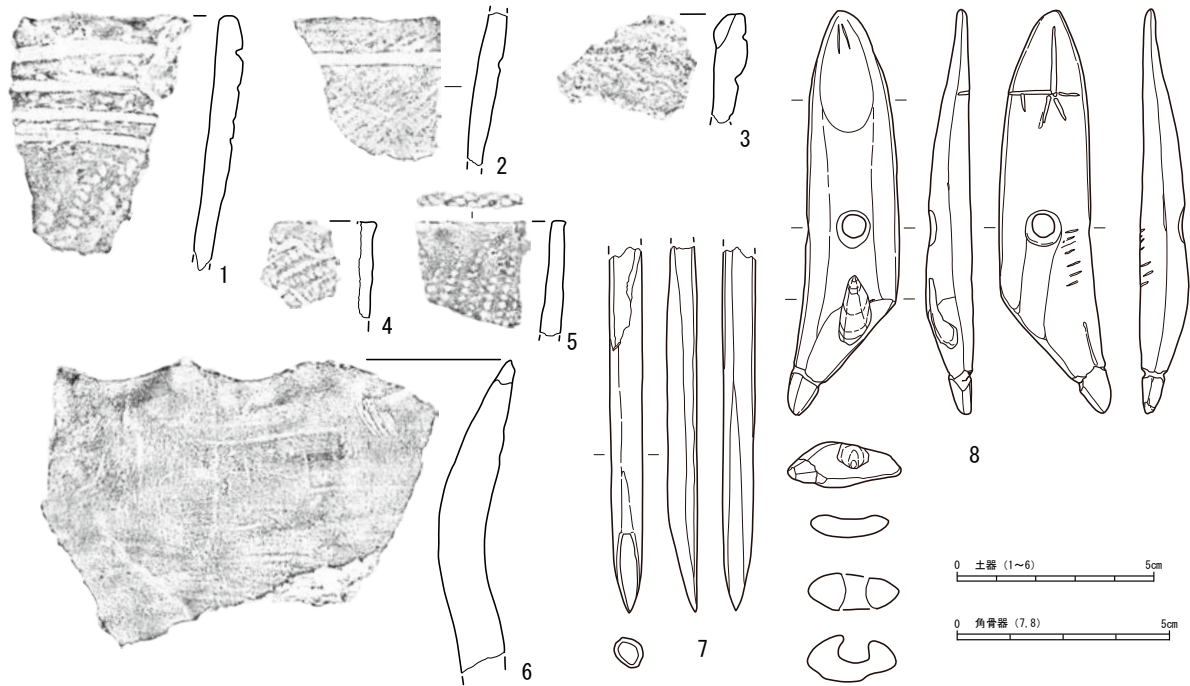
(2) 骨角器

7は鳥管骨製の刺突具。刺突部は素材を斜めに切り落として作られている。全長6.9cm、幅0.7cm。8は索孔をもつ開窩式の銚頭。全長7.7cm、索孔部幅1.8cm、最大厚0.9cm。先端部は側縁が緩やかなカーブを描く三角形をなし、表面側に窪みが作られている。器体中位で側縁は平行し、同じ幅を保つ。索孔は両面から穿たれ、裏面では尾部に向かって浅い溝が連結する。この溝内はわずかに赤変している。索孔内径0.4cm。尾部は単尾で左縁に偏り、内側が斜めに面取りされている。尾部長2.1cm。窩はその面取り部から先細りに作られている。窩の奥行1.0cm、最大内径0.5cm。線刻は裏面の先端部に「大」の字様のもの、尾部に数条施されているほか、索孔付近に横方向の短く浅い傷がある。素材はシカ角とみられる。



第1図 推定採集位置 ● (道埋文センター2011図II-1を改変)

* 釧路市埋蔵文化財調査センター



第2図 遺物

3. 所見

第1図1～5は、縄文晩期後半の緑ヶ岡式から続縄文前半の興津式に相当する。図示していない破片もそれらに属する。一方で6は、器形や口縁形態などにやや異なる特徴があり、時期など不明な点が多い。

8の銚頭は、銚先の装着が溝によるものではなく受皿状の窪みを片面に造作し銚先基部を緊縛したものとみられる。そうした細部の違いは認められるが、形態や窩のあり方から高橋(2004)が仮称した「幣舞タイプ」に追加してよいであろう。このタイプは現時点で、室蘭市祝津貝塚(大場1962)、釧路市幣舞遺跡(石川編1999)、礼文町オシオンナイ砂丘遺跡(山浦ほか2013)で発見されている。天寧1遺跡の2008年調査で本タイプは検出されなかったが、銚頭の構成やサイズおよび動物遺存体の内容は幣舞遺跡と酷似しており、単尾開窩式を主体とする銚頭群に本タイプが含まれることは十分想定できる。

本資料は表採という制約はあるが「幣舞タイプ」が縄文晩期後半から続縄文前半の北海道太平洋側からオホーツク沿岸において「安定したタイプ」として位置付けた見解(高橋前掲)を支持するものである。

(註) 自治体及び組織名称は採集当時のものである。

【参考文献】

- 石川朗1999「Ⅲ-3-(2) 遺物」『釧路市幣舞遺跡調査報告書』
IV 釧路市埋蔵文化財調査センター 22-46頁
- 石川朗編2012「2.北海道釧路工業高等学校郷土史研究部」
『釧路市内高等学校郷土史研究部資料調査報告書』釧路
市埋蔵文化財調査センター 3-9頁
- 大場利夫 1962「第3章第2節祝津貝塚」『室蘭遺跡』室蘭市
教育委員会 13-34頁
- 岡崎由夫・澤四郎 1968「2.釧路村テネル北貝塚調査略
報」『釧路考古学研究会連絡紙』Vol.1-6 3-4頁
- 澤四郎・西幸隆 1975「Ⅶ釧路湿原周辺の遺跡分布」『釧路
湿原総合調査報告書』釧路市立郷土博物館 301-336頁
- 鈴木宏行2011「Ⅳ-4骨角貝製品」『釧路町天寧1遺跡(2)-町
道改良地点-財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報
告書第274集』159-172頁
- 高橋健 2004「続縄文文化の回転式銚頭」『北方探究』第6
号 北方懇話会13-45頁
- 山浦清・高島孝宗 2013「礼文島オシオンナイ砂丘採集の
一銚頭」『枝幸研究』第4号 枝幸町教育委員会 1-6頁